

<空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！>

2025.8.20

JAL闘争を支える京都の会News No.119

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

労働組合つぶしをおこなう ような企業に未来はない！

2025年7月29日、大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「なかまユニオン」、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」、「合同織維労組」の皆さんなど、計15人にご参加いただきました。神瀬さんのフェイスブックを見て来たという方も参加されました。JAL客乗争議団から神瀬麻里子さんが参加されました。

神瀬さんは以下のように訴えました。「2010年の大晦日、もう14年半経つが、JAL日本航空はベテランのパイロット81名、ベテランの客室乗務員84名を解雇にした。この時のJALの営業利益は過去最高の1884億円だった。そんな大儲けをしながら、なぜ解雇が強行されたのか。会社が言った理由は高年齢と過去の病歴であった。しかし、働いていれば誰もが歳をとり病気になる。それを理由に解雇されてはたまたものではない。解雇撤回を求める運動の中でわかったのは、本当のJALの目的は組合つぶしであったことである。皆さん憲法には28条で認められている団結権がある。誰にも労働組合に入る権利があり、労働組合で運動することが認められている。しかしJAL日本航空はこの労働組合の活動を忌み嫌った。徹底的に労働組合をつぶしにかかった。どうしてもつぶせなかったパイロットの組合と客室乗務員の組合をつぶしたくてこの解雇がおこなわれた。本当に残念である。ひどいことだと思う。私たち働く者の力は一人一人はとても小さい。とても職場の中で何かを改善させることは難しい。そんな時に職場の問題を改善し、働くものの命と健康と安全を守るのが労働組合の役割である。JALは1985年8月の123便事故以来、死亡事故を起こしていない。表面上はそうであるが、毎日のように事故一歩手前のヒヤリハットが起きている。職場からは時間が足りない、人が足りない、部品が足りないという叫び声が毎日のように聞こえてくる。2010年、ここ伏見が地元の稻盛和夫さんが最高責任者の会長としてJALに乗り込んでこられた時におっしゃったのは、安全より儲けということである。『JALの経営に携わっている役員は八百屋ほどの実力しかない。よくそんなことで商売が続けていられるな。』そのような感想を述べたと聞いて私たち社員は本当にびっくりした。（*稻盛氏の発言は八百屋さんに対する



る蔑視発言だと思う。) 稲盛さんは京セラでは大事にされていて京都でも有名人かもしれないが、航空会社にとって安全は至上命題である。儲け家が出なくとも運航しなければいけない時がある。そんな安全を守ってきたのが、私たち労働組合である。その労働組合をつぶそうとし、本当につぶしてしまったのがJALである。しかし、今JALの中はどうなっているだろうか。度々報道されるが去年の1月に羽田で起きた衝突事故、その後も飲酒問題、そして世界各地の滑走路で起きている接触事故、これを止めることができない。昨年の4月に鳥取さんという初めての女性社長がJALの中で誕生した。客室乗務員出身なので私たちの気持ちをわかってもらえるのではないかと期待もした。一度話がしたいということで申し入れましたが、電話に出て来ることさえしない。ほんとうにひどいことだと思う。鳥取さんがJALの社長になってやったのは国交省に対して謝ることばかりである。90度のお辞儀をして謝っている、そして反省をしているという報道はされるが、JALは真の意味での反省をまったくしていない。現場の声を聞いていない。新しい規則をつくるばかり、縛るばかりである。働く者は縛られれば縛られるほど実力が出にくくなる。緊張のあまり伸び伸びとした仕事が出来なくなっているのが今の状況である。そのような状況をテレビや新聞は報道し



ない。過去に解雇がおこなわれたということももう忘れてしまっている、そんなこともあったのかなあ、という方がほとんどである。しかし、JALは今日もこの京都の空を飛んでいる。何事もなく、事故もなく飛んでほしい、そんな願いを込めて私たちは職場にもどりたい、職場に戻って安全な航空会社になってほしい、そして123便のような事故を起こしてほしくない。そのような願いを込めてこの運動を続けている。40年目の8月12日には愛媛、岡山、徳島で宣伝がおこなわれる。

二度と事故をおこさないことを願った宣伝である。11日には羽田空港でサイレントスタンディングがおこなわれる。そんな私たちの願い、全国の支援者の願いをどうにかしてJAL経営に伝えたいと思っている。昨年4月に就任してから国交省に謝ってばかりの鳥取社長であるが、6月におこなわれた株主総会の中では驚くべき発言をした。『この争議に対してこれまで話し合いが足りなかった。そのことについては反省している。』そのような趣旨の発言をして私たちは驚いた。そして期待もしたが翌日本社で要請行動をしてもこれまで通り、玄関にさえ入れてくれなかった。株主の前で言うことと、私たちの前でやることはまったく違っていた。それがグローバル企業と言われ、コマーシャルをバンバン打っている企業のやることなのか。私たちはそのような欺瞞を許すことはできない。労働組合つぶしをおこなうような企業に未来はない。労働者をまるで虫けらや雑巾のように扱っている。働く者は会社のために汗水たらして働いている。労働者がいなければ経営は儲けを出すことができない。ぜひ、皆さん、仲間がお配りしているカラーチラシをご覧いただいて、私たちのこの運動、そして日本中の安全で8時間働けば暮らしていく世の中にというこの運動にご理解とご協力を願いしたい。」と訴えました。

次回 宣伝行動 (呼びかけ JAL闘争を支える京都の会)

8月26日(火) 午後2時~3時 伏見・大手筋商店街